## 下古志遺跡から出土した遺物

### 弥生土器

1-1 区で見つかった穴（長さ 1.1m、幅 70cm、深さ 45cm の長だ円）の中で 3 種類の弥生土器のつまった土器だまりが出土しました。甕や壺が 3 個、注口土器 1 個、鼓形器台 3 個がおりかさなってつまっていました。割れた土器の破片を付けて並べてみました。弥生時代後期後半（1800 年前）のものと思われます。甕には煤の付いたものもあり、生活のようすがしのばれます。何かの祭祀の跡かもしれません。

### 中世の土師器

1-2 区で見つかった小さな穴から土師器の椀が 16 客、さかさまに伏せた状態でおりかさなって出土しました。穴の大きさは平面が縦横 50cm の角丸四角で深さ 35cm でした。破片を付けて並べてみると椀の大きさが大（5 客）中（10 客）小（2 客）の 3 種類あることがわかりました。平安時代末から鎌倉時代初めのものと思われます。何かの祭祀の跡かもしれません。

### 古銭

下古志遺跡で見つかった古銭は、全部で 100 枚近くになります。「永楽通寶」など、室町時代のものが中心です。古銭の中には、約 45 枚がくっついたものや、銭を留める紐がのこっていたものもありました。

## 下古志遺跡の年表

| | | 下古志遺跡 | 出雲市 | 日本列島 |
|---|---|---|---|---|
| 旧石器時代 | | | | 狩りで生活する |
| 縄文時代 | 7,000 年前 | | 菱根遺跡で生活が営まれる | 狩りや採集・漁労により生活する |
| | 3,600 年前 | | 三瓶山の噴火による土石流により、三田谷Ⅰ遺跡に埋没林ができる | |
| 弥生時代 | 2,500 年前 | | 矢野遺跡や三田谷Ⅰ遺跡などで稲作がはじまる | 稲作がはじまる |
| | 2,100 年前 | 集落が築かれはじめる | 天神遺跡や青木遺跡など、市内各所で遺跡が営まれる | 鉄器や青銅器が使われる |
| | 1,900 年前 | 掘立柱建物が築かれ、溝が掘られる | 西谷墳墓群が築かれる | 中国や朝鮮半島と盛んに交流する |
| 古墳時代 | 1,700 年前 | 溝が放棄される | | 前方後円墳が築かれる |
| | 1,600 年前 | （遺物は見つかるが遺構は見られない） | 北光寺古墳が築かれる | |
| | 1,400 年前 | | 大念寺古墳、上塩冶築山古墳、宝塚古墳などが築かれる | 横穴式石室をもつ古墳がつくられる |
| 奈良・平安時代 | 1,300 年前 | | 『出雲国風土記』がまとめられ、出雲郡・神門郡が置かれる | 平城京・平安京が築かれる |
| 鎌倉・室町時代 | 800 年前 | 掘立柱建物や溝、井戸などが築かれ、集落が営まれる | 尼子氏と毛利氏が戦う | 鎌倉幕府・室町幕府 |
| 江戸時代 | 400 年前 | 掘立柱建物や溝が築かれ、集落が営まれる | 斐伊川が現在の位置に流れるようになる | 江戸幕府 |

編集・発行

島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒690-0131　松江市打出町 33
TEL　0852-36-8608

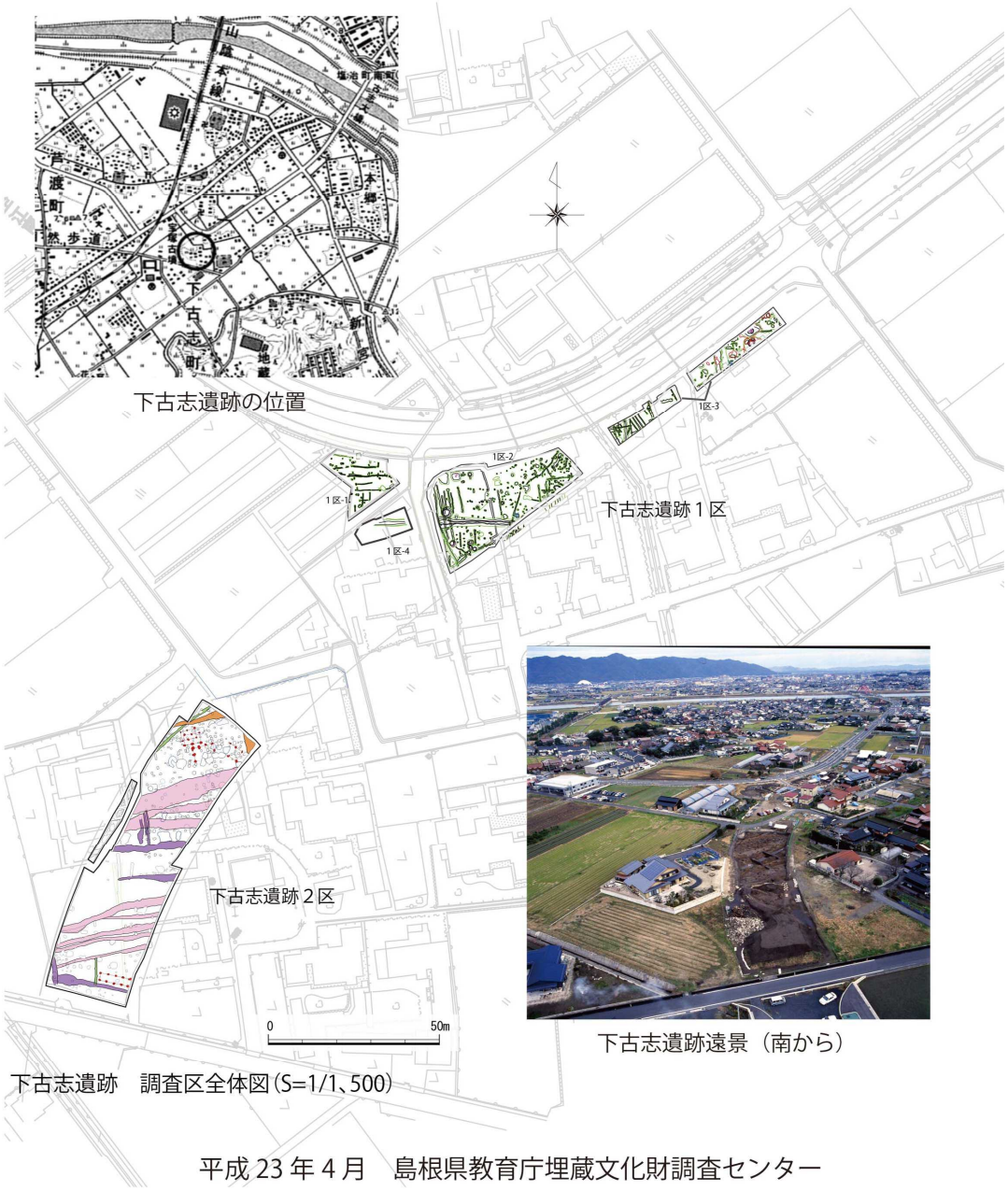


# 下古志遺跡の発掘調査について

島根県教育庁埋蔵文化財調査センターは、県土木部道路建設課から委託を受けて、県道多伎江南出雲線の建設に伴う出雲市下古志遺跡の発掘調査を、平成 22 年 5 月から平成 23 年 1 月まで実施しました。調査の結果、弥生時代から古墳時代および鎌倉時代から室町時代の建物跡や溝が見つかりました。




下古志遺跡の位置




下古志遺跡１区

下古志遺跡２区

下古志遺跡　調査区全体図（S=1/1、500）



下古志遺跡遠景（南から）

平成 23 年 4 月　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

## 下古志遺跡1-2区

1区は4つの小区画に分けて調査しました。このページで紹介する1-2区では弥生時代後期後半（約1800年前）の遺構と平安時代末～鎌倉時代（約800年前）の遺構が多く見つかりました。上の土層から掘っていくと、先に平安時代末～鎌倉時代の遺構が見えてきますが10cmも掘り進まないうちに弥生時代の遺構も見えてきました。弥生時代の遺構は掘立柱建物や布掘建物、それらに伴う井戸、大きな溝、土坑墓などです。平安時代末～鎌倉時代の遺構は井戸や土器埋納坑、土坑墓などです。時代によって土地利用のあり方が違うことがわかります。

1区のほかの区画では、弥生時代後期後半の掘立柱建物や土器溜り、鎌倉時代の井戸、16世紀後半の木棺墓などが見つかっています。

1-2区を真上から見た空中写真　まっすぐな大きい溝（SD41）が東西に走っているのがわかります。

1区周辺の航空写真
上方に神戸川が見え、古志橋から西へ1km

溝の北側にも布掘建物（SB06）や掘立柱建物がありました。

平安時代末～鎌倉時代初めの中世土師器椀（17客）の埋納坑

SD41溝からは弥生時代後期後半（約1800年前）の土器が出土しました。

調査区内でまっすぐ40mほど続く、幅2.5m深さ75cmの大きな溝（SD41）があり、その南側に掘立柱建物や布掘建物がありました。

弥生時代の井戸（SE01）　左の写真のように井戸枠の痕跡が上の方まで続いています。1.3m下に丸太をくりぬいた井戸枠（直径70cm）が残っていました。

弥生時代後期後半（約1800年前）の遺構

- 布掘建物
- 掘立柱建物
- 溝
- 井戸

0　10m
(S=1:250)

### 下古志遺跡１－2区遺構配置図（S=1／250）



## 下古志遺跡2区の成果

下古志遺跡2区では、弥生時代～古墳時代の溝8本、鎌倉時代～室町時代などの掘立柱建物5棟、溝2本などが見つかりました。

弥生時代の溝のうちSD20は幅約5m、深さ約1.3mの大規模なもので、溝の中からは多くの土器が見つかりました。溝は北東から南西に伸びるものが多くみつかりました。これらの溝は下古志遺跡の集落の南側を区画するためのものと考えられます。

また、鎌倉時代～室町時代の掘立柱建物は北側と東側に溝が位置していることから、建物を溝で区画していたことがわかりました。

以上の成果から、下古志遺跡2区の位置する場所は弥生時代以降の長期にわたって集落の一部分を構成していた場所であることが判りました。

弥生時代・古墳時代の溝からは、多くの土器が見つかりました。

長さ1.2m、幅60cmの楕円形の土坑から、古銭が約70枚も見つかりました。

北東から南西に伸びる弥生時代・古墳時代の溝は、当時の集落の南側を区画するためのものと考えられます。（写真は南側から遺跡を撮影したもの）

- 弥生～古墳
- 鎌倉～室町
- 江戸以降
- 時期不明

0　10m
1/500

### 下古志遺跡2区　全体図（S=1/500）